

新型コロナウイルスは肺だけでなく、 肝機能にまで影響する？



現段階では明らかにされていない。

ふるたクリニック／外科

理事長 古田一徳

■新型コロナウイルスの影響は肝機能にも？

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）では、肺の線維化だけでなく、肝機能にまで影響が及ぶのではないかと懸念されています。実際はどのようなのでしょうか。

新型コロナウイルスの影響として多く報告されているのが、肺の後遺症です。事実、感染症が治癒してPCR検査で陰性になっても、「肺線維症」という器質的変化によって障害が残るケースが報告されています。

またドイツやアメリカからの報告では、肺以外にも、腎臓の障害が報告されています。重症患者の2〜4割が急性腎不全をおこし、治癒後も腎臓への後遺症を残すといわれています。そのため、肝機能への影響が心配されるのも当然です。

■肝機能障害の報告事例

肝機能障害の報告には次のようなものがあります。

たとえば中国の417人を対象にした調査では、318人（76.3％）に何らかの肝機能検査の異常がみられ、障害が強いほど重症化しやすかったと報告されています。

また2020年5月に報告されたものでは、47の研究論文（COVID-19…計1万890症例）の解析で15〜16％に肝機能障害がみられ、別の解析（12研究論文、COVID-19…計1267症例）では肝障害の頻度は19％と報告されています。

感染をおこしてから肝障害の機序としては、ウイルス自体の肝細胞への障害と、全身のサイトカインストームや虚血、低酸素も関係していると考えられます。

ただし、肝機能障害が感染症治療後にも継続したり、慢性肝炎や肝硬変へ進展したりすることについては、現段階で明らかにされていません。

■肝疾患患者への影響は？

他方で、もともと肝疾患のある方がCOVID-19に感染した場合の検討は、多くの国で行われています。

たとえば日本では、非アルコール・アルコール性脂肪性肝疾患の患者が増加してきています。自己免疫性肝疾患や肝移植後などで、ステロイド剤、免疫抑制剤を投与されている患者さんは、COVID-19に感染すると重症化する可能性があります。肝硬変や肝臓がんも重症化にかかわる要因であると報告されています。

また日本肝臓学会からは、自己免疫性肝疾患や肝移植後などでステロイド剤や免疫抑制剤を投与されている方は、感染の予防につとめ、自己判断で現在の肝疾患に関する

内服を中止しないようにとの提言がなされています。内服の中止でかえって肝機能が悪化する恐れがあるためです。

ただ今のところ、肝疾患における新型コロナウイルス感染の悪影響は明らかでないとも提言されています。

■今後の推移を注視して予防につとめよう

COVID-19は、その病態として、全身を高濃度のサイトカイン（サイトカインストーム）がめぐります。そのため、いろいろな臓器で過剰な炎症がおき、障害がおきてきても不思議ではありません。

当然、肝臓への影響も危惧されます。現段階では明らかになっていませんが、将来的に、肝臓への影響が出てくる可能性もあります。

そこで、肝臓疾患の有無にかかわらず、COVID-19対策を徹底しましょう。予防法としては、生活リズムを整える、体力をつける、手洗いをする、マスクをつけるなど、基本的なことが大切です。情報に惑わされることなく、また必要以上に恐れないようにしましょう。

